

水 産 生 物 分 布 調 査

(No.2 日本海におけるハタハタ)

十 三 邦 昭

は じ め に

本県におけるハタハタは、昔から一部の地域でしか漁獲されなかったこと、地域重要魚種および漁海況予報の対象魚種になっていないことなどから、これまであまり調査されていない。

一方、漁獲統計資料についても県企画部統計課発行の県統計には本種の記載がなく、その他の魚種に含まれてしまっている。

東北農政局青森統計情報事務所発行の農林統計には本種の数量が記載されているが、とりまとめ方法が年により異なっており、海域別および市町村別の数量は最近のものより分らないということ、漁業別の数量も海域毎に記載されていないなどの問題がある。

更にはそれらの基資料である漁協資料も数量や金額の少ない年とか月などは、その他の魚種に含まれてしまっているのが現状である。

水試でも漁協の個人伝票からの資料収集をおこなっているが調査していない年もある。したがってこれらの状況から、特に昭和50年以前の漁獲量を正確に把握することは困難を極める。

筆者は第3回ハタハタ研究協議会（平成元年3月1日・新潟市）出席の機会に、将来の漁況予報を実施するためにも、沿岸、沖合別の漁獲量の把握が不可欠と考え、漁海況予報事業の漁況部門を長く担当していた関係もあり、当時調べておいた漁獲量や電話で聞きとった漁獲量などを含めた種々の資料を総合し、今回の漁獲量をとりまとめた。

ただし、ここで念頭に入れておかねばならない点は昭和50年以前のハタハタは、現在のマイワシなどのように安い魚の代表的な存在であったこと、極く沿岸で一時的に大量に漁獲される魚種であったことなどから、漁協の正規な流通ルートを通さずに流通した数量や自家消費となった数量が相当量あり、実際の漁獲量は今回のまとめた数量より更に2～3割多くなるものと推定される。

また、沖合の漁獲量は40年代の鯔ヶ沢沖の数量が不明瞭であり、若干少なめとなっている。

分布生態と漁獲変動について

本県でハタハタが漁獲される海域は殆んどが日本海側で、しかも分布域が限られている。

図1に沖合、沿岸の漁場図を示した。沖合では鯔ヶ沢沖の「鱈場」の中、上漁場、とどろき沖の「尾荒場」漁場および岩崎沖の「新場」漁場の水深100～320 mの泥場である。

しかし、昭和45年度に行われた民間船の試験操業では、8月に水深320～435 m海域でも漁獲された例があった。

沖合漁場を利用する底曳網の盛漁期は11～12月であるが、禁漁期（7～8月）を除く各月とも数量的には非常に少ないながらも漁獲されている。

沿岸では小型定置網、刺網などにより、12月には鰺ヶ沢以南の水深2～3mから12mまでのホンダワラなどの繁茂している藻場周辺で漁獲される。

沖合では索餌群、沿岸では産卵接岸群が漁獲対象となっている。

図2に数量的にある程度まとまっている明治38年からの漁獲量を示したが、鰺ヶ沢町によると延宝2年（1674年）10月（旧暦）にハタハタを津軽4代藩主の生母に献上したとされており、かなり古くから漁獲されていたことがわかる。

明治38年から44年までは、年間50～140トン、大正時代には20～200トン、昭和元年から9年頃までは80～460トンの漁獲があった。その後減少し始め昭和16～17年頃まで漁獲があったと伝えられるが、この間の数量は不明である。

一方、沿岸で再び産卵接岸群がみられるようになったのは昭和37年からである。（図3）40～50年頃まで沿岸に大量に来遊し、年間250～1,700トン、沖合でも20～350トンの漁獲があった。

この豊漁時代の主な漁獲地域は岩崎沿岸であり（図4）、多い年で1,400トン、少ない年で250トンであった。このほか北金沢沿岸、深浦沿岸でも僅かではあるが漁獲がみられている。

豊漁時代には価格も安く、kg当り10～30円程度で魚箱代にもならないと歎いたほどで、岩崎地区では沖止め（生産調整）が実施され、何かよい加工方法がないのかと、いろいろ苦慮した時代であった。

その豊漁であったハタハタも、秋田県同様昭和51年頃から急激に減少し始め、漁獲の主体を占めていた岩崎沿岸では53年以降全く水揚げがみられなくなり、今年に入り僅かであるが漸く姿をみせ始めた。

一方、鰺ヶ沢沿岸でも51年以降急減し、58～60年までは全く来遊がみられなかったが、61年に1.3トン、62年に1.5トン、63年に1.9トンの漁獲があった。

沿岸の漁期は付表にみられるように、豊漁時代は不漁時代よりも漁期が早い傾向があるが、63年度は近年の不漁時代の中ではやや接岸が早かった。

また、魚群の性状は図5～6に示したように、63年は不漁時代としては沖合、沿岸とも例年より大型群が多かったのが特徴であった。

例年、沿岸への産卵接岸個体の体長は、雄は12～13cm以上、雌は14～15cm以上であるが本年も同様であった。

雌が雄より大型であること及び、食性が沖合では、端脚類、イカ類、魚類を摂餌しているなどは例年とは変りがなかった。

次に回遊移動状況であるが、本県ではハタハタの標識放流を実施したことがないので、これまで確実なことを述べられなかったが、漁況の推移から深淺移動（沿岸では北の方が漁期が早いことがある。岩崎～鰺ヶ沢間〔深浦、北金沢〕では豊漁時代でも漁獲が非常に少ない。鰺ヶ沢沖合で漁獲が多いときは沿岸でも漁獲が多いなどの理由）と水平移動（県境沖合で漁獲が多いとき、鰺ヶ沢沖合でも多い。豊漁

時代にマス浮延縄で時々混獲されており、かなり移動性がある。)とを想定していたが、秋田県水試が63年11月17日に県境沖水深 250 mで標識放流したハタハタが、10~20日経過して、鰺ヶ沢沖(鰹場)の水深 270 mと 230 mで2尾再捕され、1ヶ月後では県境の大間越~岩崎海岸で4尾再捕され、これらの考えが実証された形となった。このほか、鰺ヶ沢沿岸でも1ヶ月経過して2尾再捕されたが、再捕日数からこの群は秋田県との県境沖から鰺ヶ沢沖へ、そして鰺ヶ沢沖合から鰺ヶ沢沿岸へと移動したものと考えられる。

一般に沿岸では初漁期に雄が先に接岸し、盛期には雌が多くなり、終漁期には再び雄が多くなる傾向がある。

平成元年度1月17日に試験船が鰺ヶ沢(鰹場)水深 260 mで漁獲したハタハタは、生殖腺重量が1 g未満の放卵、放精直後と思われるものばかりで、沿岸で産卵を終えた後、急速に沖合に移動したものと考えられる。

昔からの漁況の言え伝えでは、大羽イワシ(大型マイワシ)が多く来遊しているとき漁が悪い(岩崎)、魚体が不揃いのとき漁が悪い(鰺ヶ沢)、寒波の厳しい年、水温が低いとき漁がある(鰺ヶ沢)、沖合で漁獲の多い年は沿岸でも多い(鰺ヶ沢)などがあり、傾向的に一致している点も多い。

以上が青森県の本種の現状で、漁獲量が2~3年前より僅かに増えたというものの、漁獲のオーダーは極めて低い。

今後の見通しとしては、環境条件が年々厳しくなっている現在、例えば、昔産卵場であった藻場が、漁港および海岸の埋立てや護岸工事などで次第に縮小されてきていること、底曳網漁場における漁獲努力量の増加(漁船の大型化、馬力の増加、操業回数の増加など)、産卵量が依然低水準であること(ブリコ、即ち本種卵が豊漁時代は時化になると海岸に大量に寄ったが、近年は海岸に寄ったという話を聞いたことがない)などから、豊漁時代のような多くの漁獲は期待できないと思われる。

参 考 文 献

- | | |
|------------------|--|
| 青森県統計情報事務所 | 青森県農林水産統計年報各年度 |
| 鰺ヶ沢漁業協同組合 | 業務報告書各年度 |
| 鰺ヶ沢町(59年) | 鰺ヶ沢町史第2巻 |
| 浅加信雄・鈴木史紀(1971) | 久六島周辺漁場開発調査・昭和45年度青水試事業概要 |
| 木村 大(1979) | 日本海底棲生物分布調査・昭和52年度青水試事業概要 |
| 杉山秀樹(未発表) | 昭和63年度秋田県沖のハタハタ標識放流結果 |
| 十三邦昭(") | 水産生物分布調査・昭和63年度青水試事業概要 |
| 田中俊輔(1988) | 昭和62年度ハタハタ漁獲動向・ハタハタ研究協議会 |
| 田名部政春・鶴川正雄(1958) | 青森県の海況と漁況について・対馬暖流開発調査報告書第1輯・(漁況海況篇)・水産庁 |
| 富永武治・木村大(1982) | 水産生物分布調査・昭和55年度青水試事業概要 |

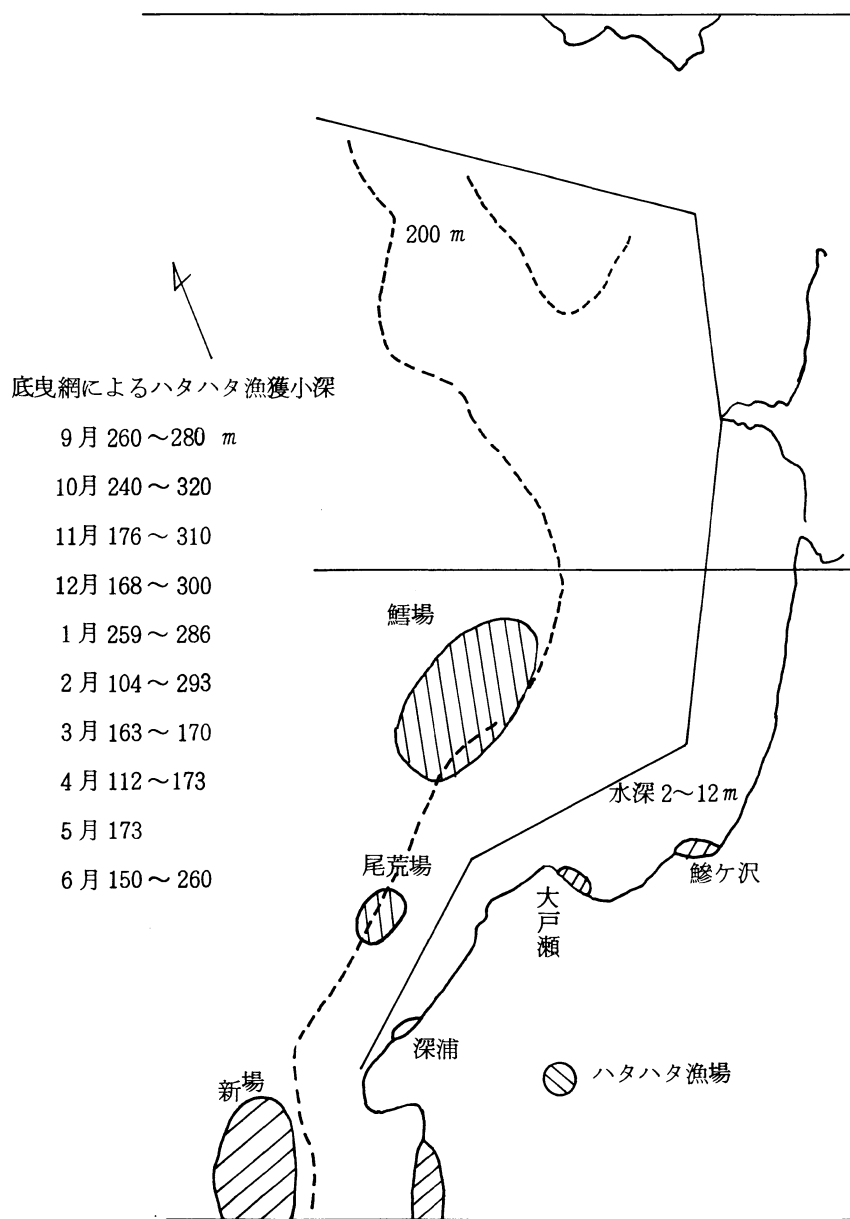


図1 ハタハタ漁場図

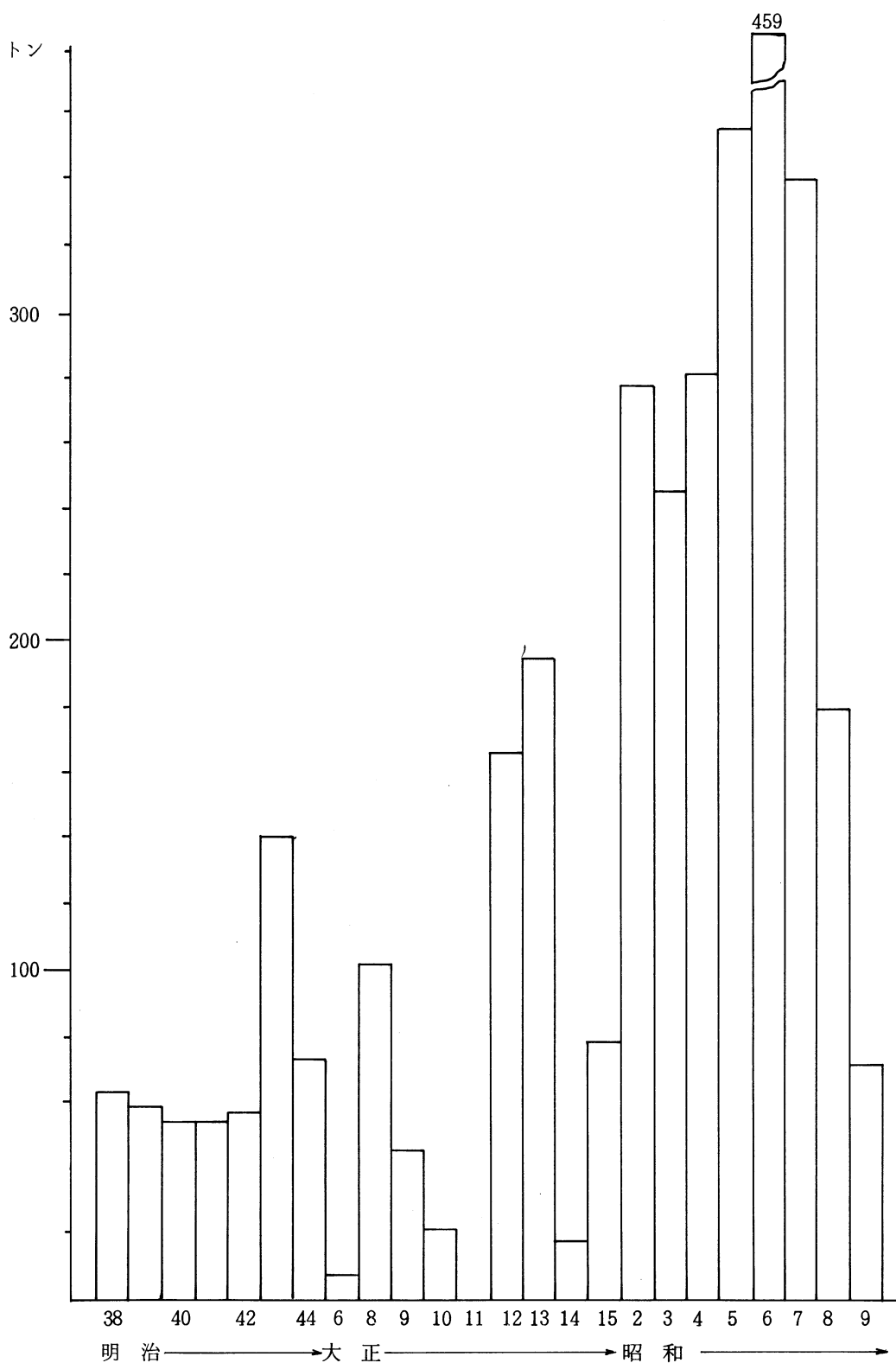


図2 青森県日本海のハタハタ漁獲量

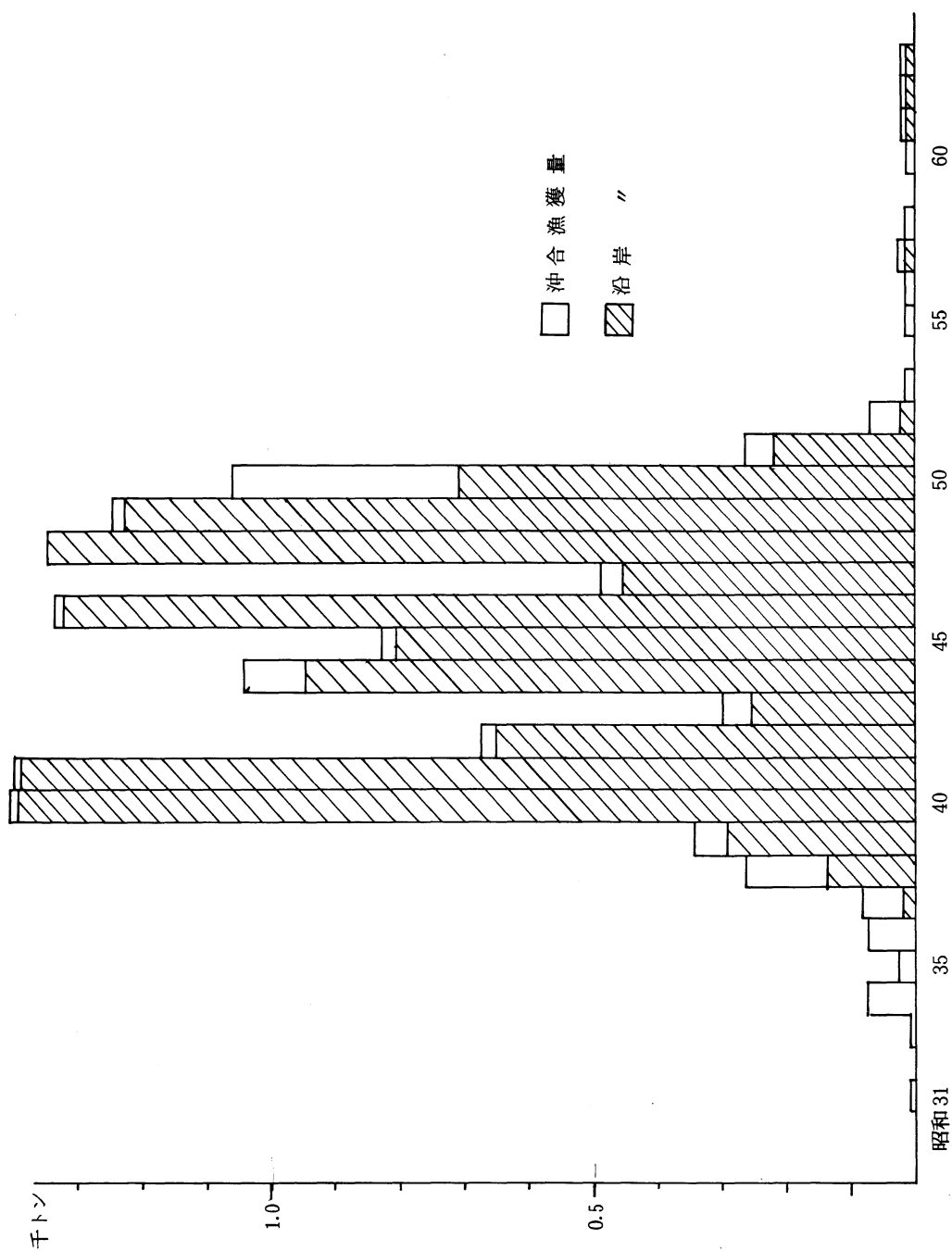


図3 沿岸沖合別ハタハタ漁獲量（青森県日本海）

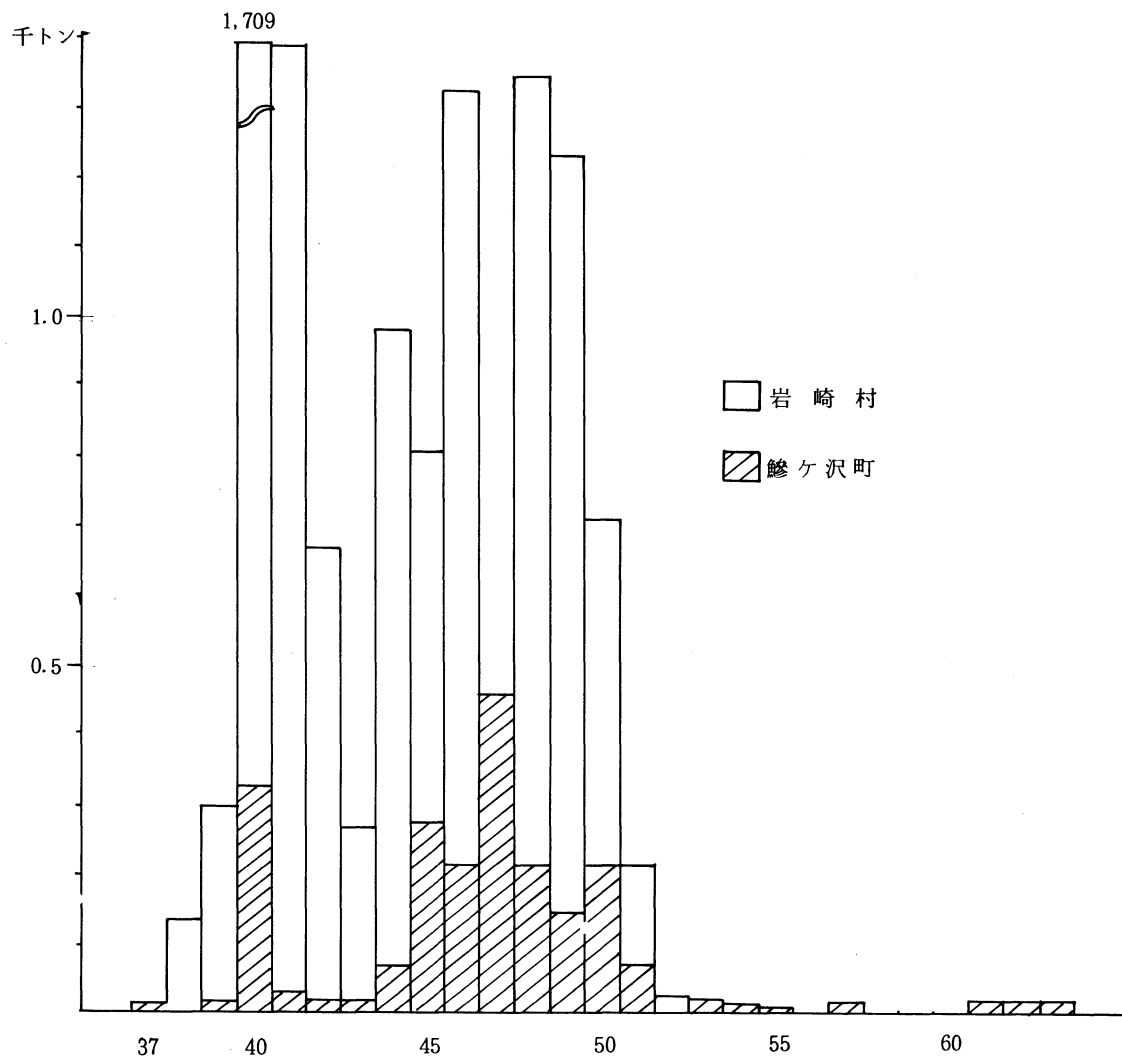


図4 岩崎村・鯨ヶ沢町沿岸のハタハタ漁獲量

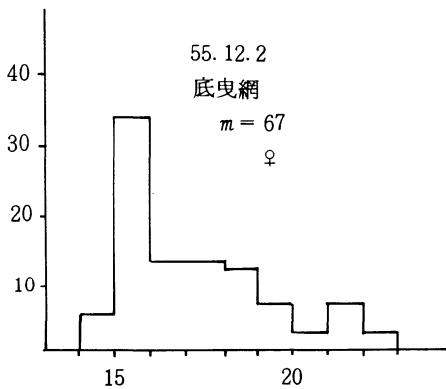
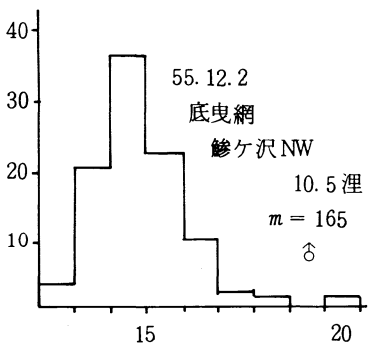
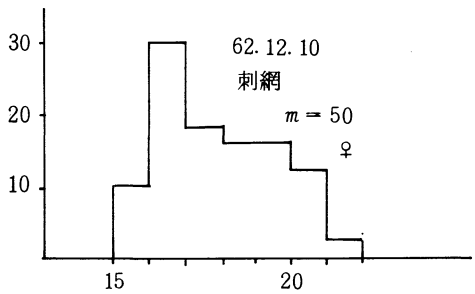
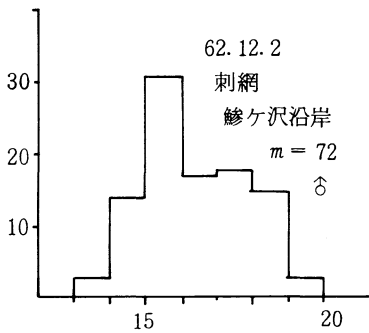
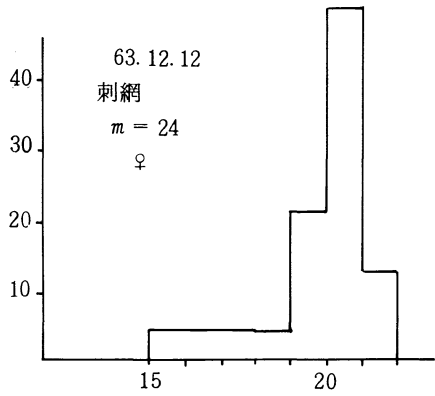
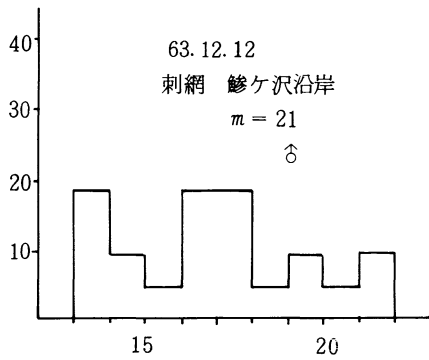
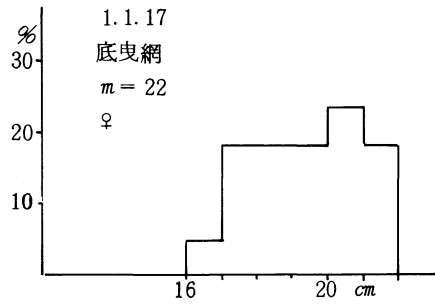
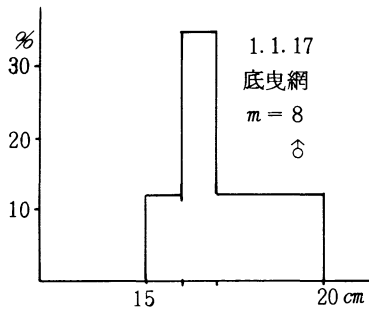


図5 ハタハタの雌雄別体長組成

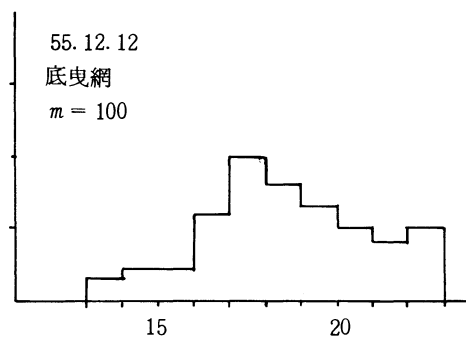
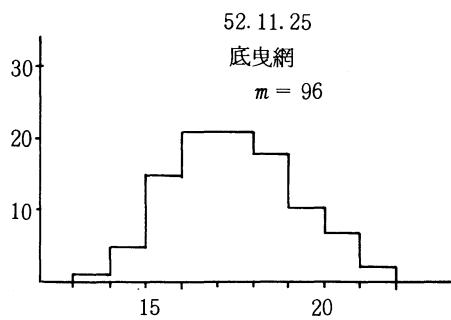
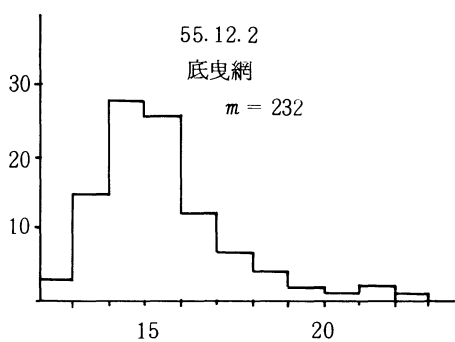
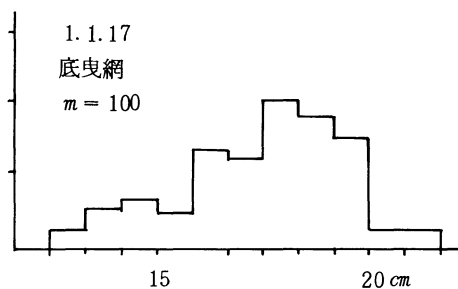
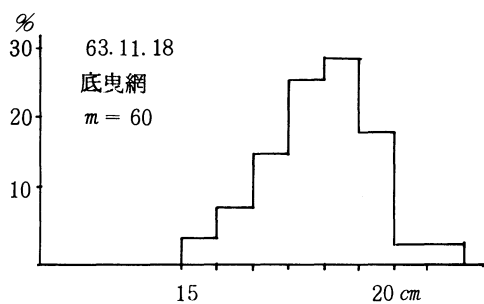


図6 ハタハタの体長組成

付 表 青森県日本海のハタハタ漁獲量(トン) (沿岸→刺網、建網→沖合→底曳)

水試調査

年	岩 崎 村	深 浦 町	鰺ヶ沢町	合 計	(沿 岸)	(沖 合)	沿岸の漁期初漁終漁 (鰺ヶ沢)
31				4			
32				0			
33				1			
34				67			
35				20			
36		49	21	70			
37	7	33	36	76	7	69	
38	134	82	47	263	134	129	
39	279	36	26	341	296	45	12.10～12.25
40	1,278	109	324	1,713	1,709	4	12.2～12.20
41	1,369	34	28	1,431	1,398	33	11.29～12.15
42	570	93	11	674	653	21	12.11～
43	244	38	10	292	254	38	?
44	785	104	156	1,045	944	101	12.6～12.20
45	532	17	269	818	801	17	12.6～12.19
46	1,096	31	204	1,331	1,326	5	12.3～12.14
47	382	46	55	483	452	31	?
48	1,057	79	210	1,346	1,346	0	12.1～12.10
49	773	314	148	1,236	1,220	16	11.26～12.11
50	397	107	545	1,049	703	346	12.7～12.19
51	69	30	158	257	211	46	12.2～12.14
52	21	23	17	61	22	39	?
53	0	2	6	8	6	2	12.8～12.24
54	—	2	3	5	1	4	12.24～12.29
55	—	3	8	11	3	8	12.10～12.22
56	2	3	6	11	6	5	?
57	—	5	12	17	9	8	12.22～12.30
58	—	4	9	13	0	13	
59	—	0	0	0	0	0	
60	—	1	2	3	0	3	
61	—	2	2	4	2	2	12.10～12.19
62	—	1	5	6	2	4	12.9～12.23
63	0	2	7	9	2	7	12.8～12.24

※岩崎村はすべて沿岸、深浦町大部分沖合、鰺ヶ沢町沿岸沖合含む